

三重県立総合医療センターの沿革

当院は、昭和23年8月に、旧海軍燃料廠附属病院を継承した、「三重県立医学専門学校・三重県立医科大学附属塩浜病院」が前身です。その後、「県立総合塩浜病院」として、北勢地域における県立病院としての役割を果たしてきました。その間、いわゆる「四日市公害」が発生し、ぜんそく患者の方の治療も行ってきました。

平成6年に、名称を「三重県立総合医療センター」に変更し、現在の四日市市日永の丘陵地帯に移転しました。平成24年4月1日には、病院の運営形態が「地方独立行政法人」となりました。

<年表>

平成6年10月	塩浜地区から移転し、「県立総合医療センター」開院 救急病院指定 身体障害者福祉法による更生医療指定病院承認 結核予防法指定病院の承認・生活保護指定病院承認 母子保健法による養育医療指定病院承認 臨床研修指定病院承認 保険医療機関指定承認 労災保険指定病院の変更承認・労災保険義肢採型指導医指定変更承認 労災アフターケア実施医療機関指定変更承認
7年 4月	NICU施設認定
8年 2月	「エイズ治療拠点病院」指定
4月	八代院長・宗行万之助就任
9年 1月	「災害拠点病院」指定(24年4月より「基幹災害拠点病院」指定)
11年 4月	九代院長・鈴木宏志就任 適時適温給食導入
12年 1月	西棟・手術棟完成
13年 3月	6階東病棟改修
4月	「第二種感染症病床指定医療機関」指定 病床数(一般412床、救命救急センター30床、感染症4床)許可
7月	セミオープンベット開設
14年 8月	「地域がん診療連携拠点病院」指定
10月	十代院長:小西得司就任
15年 3月	「地域周産期母子医療センター」指定(NICU3床、GCU7床)
4月	「へき地医療拠点病院」指定
8月	新オーダーリングシステム導入

- 9月 救命救急センター HCU ICU CCUに分離(ICU CCU 7床→6床)
- 16年
 - 3月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得(Ver.3)
パーキングシステム設置
 - 4月 患者相談窓口設置
 - 6月 外来化学療法室を開設(6床)
- 17年
 - 11月 太陽光発電システム設置
- 18年
 - 1月 緩和ケア外来開設
 - 8月 電子カルテシステム稼働(初代)
- 20年
 - 3月 放射線治療システム(ライナック)設置更新
 - 4月 十一代院長:高瀬幸次郎就任
クレジットカード決済開始
災害用地下水供給システム設置
 - 7月 セカンドオピニオン外来開設
 - 10月 外来化学療法室の移転(2階)及び増床(6床→10床)
 - 11月 自治会との災害給水協定締結
血管造影撮影装置(心臓・頭腹部アンギオ)設置更新
- 21年
 - 3月 三重DMAT派遣協定締結(三重DMAT派遣病院)
 - 4月 DPC(診断群分類包括評価制度)開始
 - 6月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定を取得(Ver.5)
 - 8月 がんサポート室開設
 - 10月 7対1看護基準取得
- 22年
 - 6月 地域連携室「かけはし」移転開設(1階)
 - 10月 320列マルチスライスCT装置導入
- 23年
 - 8月 電子カルテシステム更新(二代目)
- 24年
 - 4月 地方独立行政法人化
法人初代理事長:高瀬幸次郎就任(院長兼務)
- 25年
 - 3月 内視鏡棟増設(内視鏡センター設置)
 - 4月 周産期棟増設 NICU増床(3床→6床)、GCU増床(7床→12床)
卒後臨床研修評価機構による認定取得
 - 6月 「地域医療支援病院」承認
- 26年
 - 2月 MFICU(5床)稼働
 - 5月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得(3rdG:Ver.1.0)
 - 11月 3. OT(テスラ)MRI診断装置導入
- 27年
 - 1月 3. OT(テスラ)MRI診断装置運用開始
 - 4月 卒後臨床研修評価機構による認定取得
 - 9月 救急科設置

- 10月 「北勢呼吸器センター」開設
「県がん診療連携拠点病院」指定
- 12月 コンビニエンスストア開設
- 28年 4月 総合内科、消化器外科、乳腺外科設置
9月 脳血管内治療科、脊椎脊髄外科設置
- 29年 4月 救急科を救急・集中治療科へ改組
- 30年 4月 二代理事長:新保秀人就任(院長兼務)
- 11月 小児外科設置